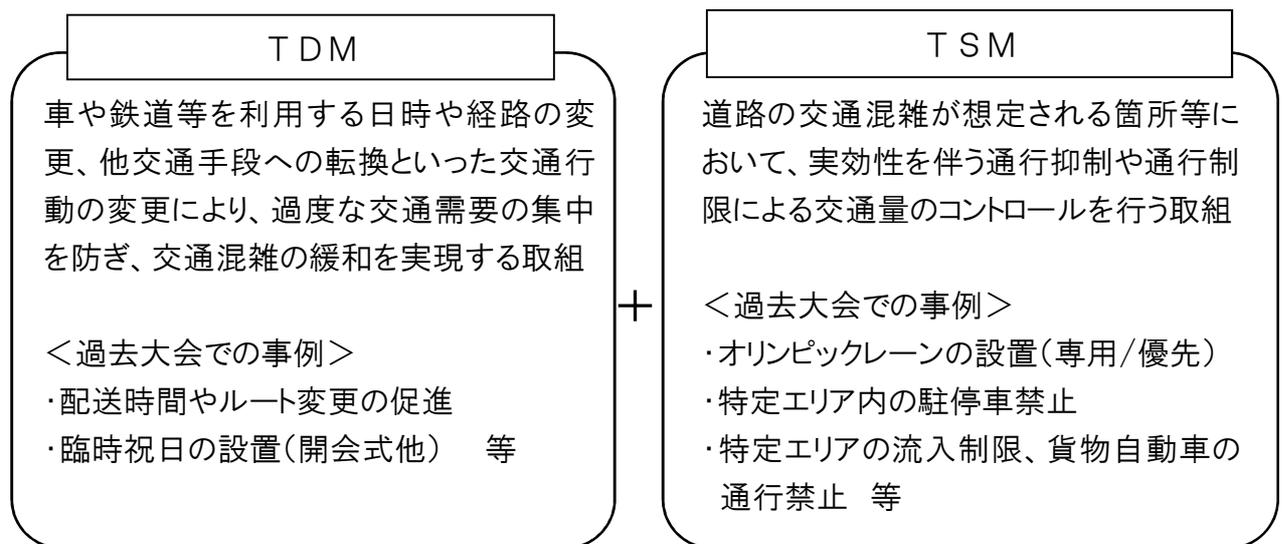


交通マネジメントの検討の方向性(案)

東京 2020 大会では、TDM(交通需要マネジメント)とTSM(交通システムマネジメント)で構成される交通マネジメントを実施し、大会関係者や観客の円滑な輸送と都市活動の安定の両立を図る。

1. 交通マネジメントの概要

広域でのTDMによる交通量削減が行われた状況をベースとし、併せて、都心部周辺や会場周辺等の道路において、より実効的な交通のコントロールとしてTSMを検討する。



2. 本検討会における検討の方向性

シミュレーションや試行等により各施策の効果や影響を把握し、合理的でより効果的な組合せを検討する。

(1)大会関係者輸送の交通マネジメント

- | | |
|-----|---|
| TDM | ① ベース交通量の削減目標の設定
② オフピーク利用や迂回等による時間的・空間的バランス補正
③ 特に需要を抑える必要がある日の交通量削減方法 |
|-----|---|

- | | |
|-----|---|
| TSM | TDMのみでは交通量の削減が十分でない状況や、ピークの平準化が必要な状況等を想定
⇒ 特定のエリアや道路への流入を適切かつ実効的にコントロール
[検討事例]専用レーン設置による影響の検討(資料 6-1、6-2) |
|-----|---|

(2)観客輸送の交通マネジメント

- | | |
|-----|--|
| TDM | ① 局所的に課題となる箇所の抽出
② 一般利用者による需要の過度な集中の抑制
③ 観客による需要の集中の抑制 |
|-----|--|